

invested in insights.

eastspring
investments

A Prudential plc (UK) company



見過ごされがちな投資機会 アジア高配当株式の魅力

**Christina Woon**アジア株式インカムチーム・ヘッド
イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）

ポイント

- ▶ アジアでは、堅調なマクロ環境、力強い企業収益モメンタム、そして株主還元への意識の高まりが相まって、配当を支える基盤が強化されていると考えられます。
- ▶ 特に、アジアの高配当株式は、他地域と比べてテクノロジーセクターの寄与が大きく、投資家が配当と成長の双方にアクセスできる点が特徴的であると言えます。
- ▶ さらに、アジアの高配当株式は、先進国株式や債券との相関が低く、インカムポートフォリオにおいて分散効果を高める可能性があると考えられます。

2026年に入り、アジアは世界の中でも有数のインカム特性に恵まれた地域としての存在感を高めています。企業は世界で最も高いフリーキャッシュフロー利回りを維持しつつ、力強いキャッシュ創出の成長を続けており、持続的な配当と健全なバランスシートを支えていると考えられます。

アジア株式インカムが注目される背景

アジアのマクロ環境は、インフラ投資の継続やサプライチェーンの多角化といった要因が下支えとなっていると考えられます。また、世界的な人工知能（AI）関連の投資が進展するなかで、アジアの半導体、電子部品、発電設備、バッテリー、データセンターなどへの需要が高まっており、これらが企業収益の支援材料となっていると言えます。こうした構造的なテーマは、過去10年以上で見られなかったほどの力強い収益モメンタムを生み出しており、より強固で持続的な配当の基盤となっていると考えられます（次頁、図表1）。一方で、アジア株式のバリュエーションは依然として魅力的な水準にあると言えます（次頁、図表2）。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

※ご留意いただきたい事項を最終ページに記載しております。

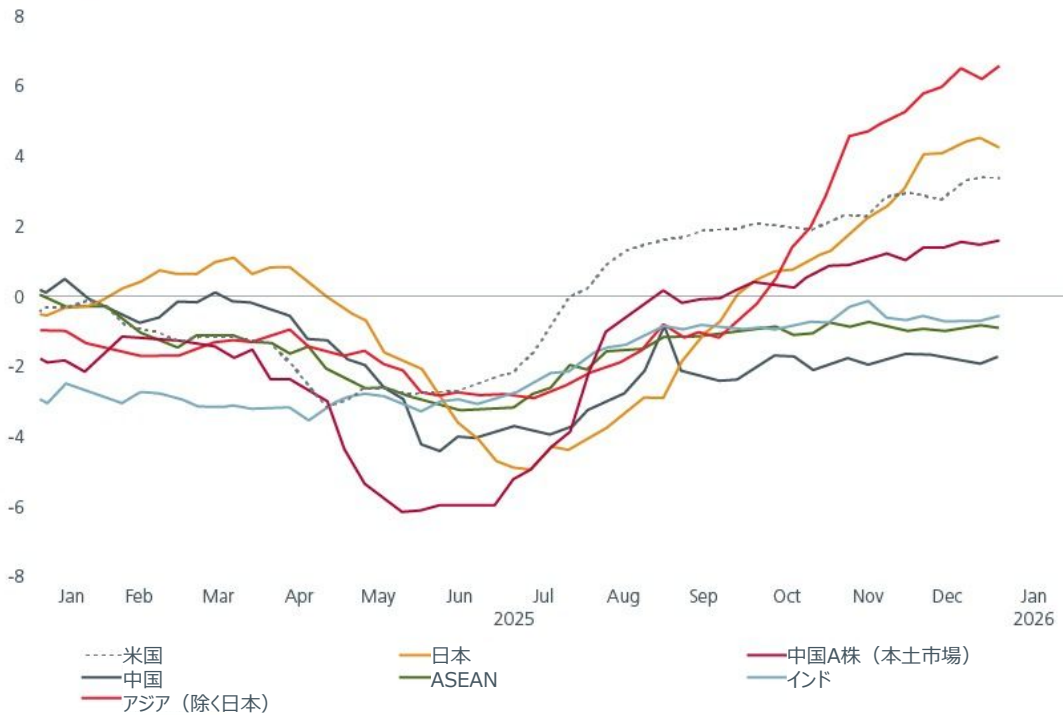
イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人資産運用業協会

260403(02)

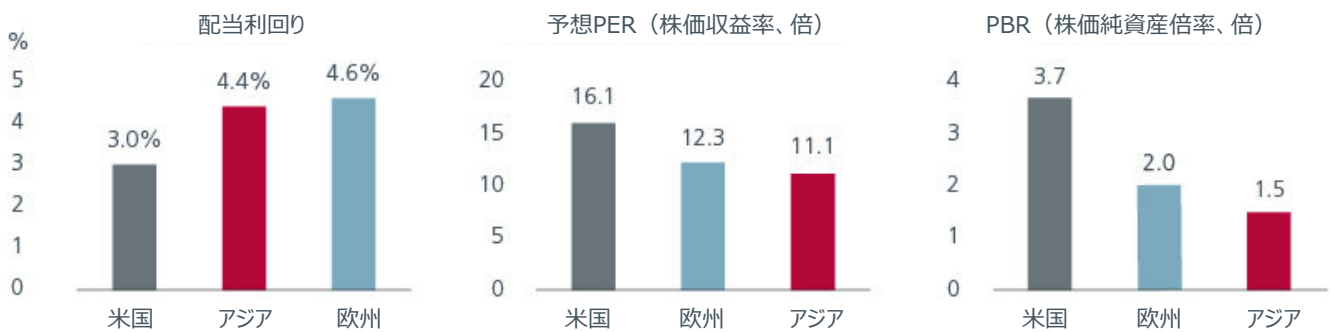
図表1：アジアの企業収益モメンタムは加速している

MSCI各国、各地域指数
12ヵ月先予想EPS（1株当たり利益）成長率（3ヵ月前比、%）



出所：LSEG Datastream（2026年1月時点）のデータに基づき、イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。

図表2：アジアは高い配当利回りと割安なバリュエーションを有する



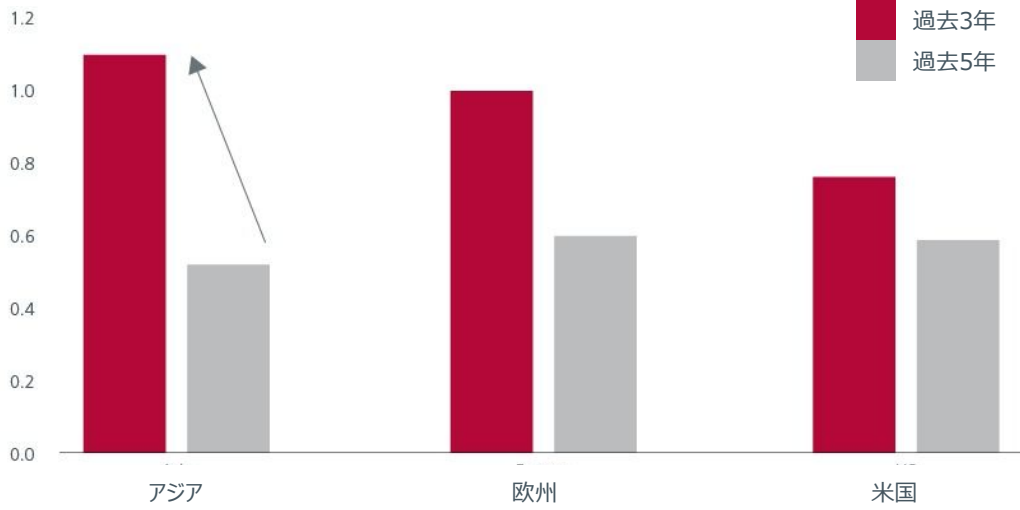
出所：MSCI（2025年12月）のデータに基づき、イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。
アジア：MSCI アジア・パンフィック高配当利回り指数、米国：MSCI USA高配当利回り指数、欧州：MSCI Europe高配当利回り指数。なお、過去の実績は将来の結果を示唆するものではありません。

アジア全体で、株主価値創造に向けた取り組みが強まっているとみられます。2024年には、韓国の規制当局が株価の割安さを是正し、株主還元政策の改善を促す「バリューアップ・プログラム」を導入しました。その後、インド、中国、シンガポールでも同様の取り組みが展開され、企業が株主還元を強化する動きが広がっていると言えます。

こうしたアクションは市場からも評価されており、配当のボラティリティは低下傾向にあると考えられます。加えて、これまでの割安な株価水準と相まって、アジアの配当株式はリスク調整後リターンが改善し、先進国市場を上回る結果となっているとみられます（次頁、図表3）。

図表3：アジアの配当株式は優れたリスク調整後リターンを示す

シャープレシオ（投資効率）



出所：MSCI（2025年12月）のデータに基づき、イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。
 アジア：MSCI アジア・パシフィック高配当利回り指数、米国：MSCI USA高配当利回り指数、欧州：MSCI Europe高配当利回り指数。なお、過去の実績は将来の結果を示唆するものではありません。

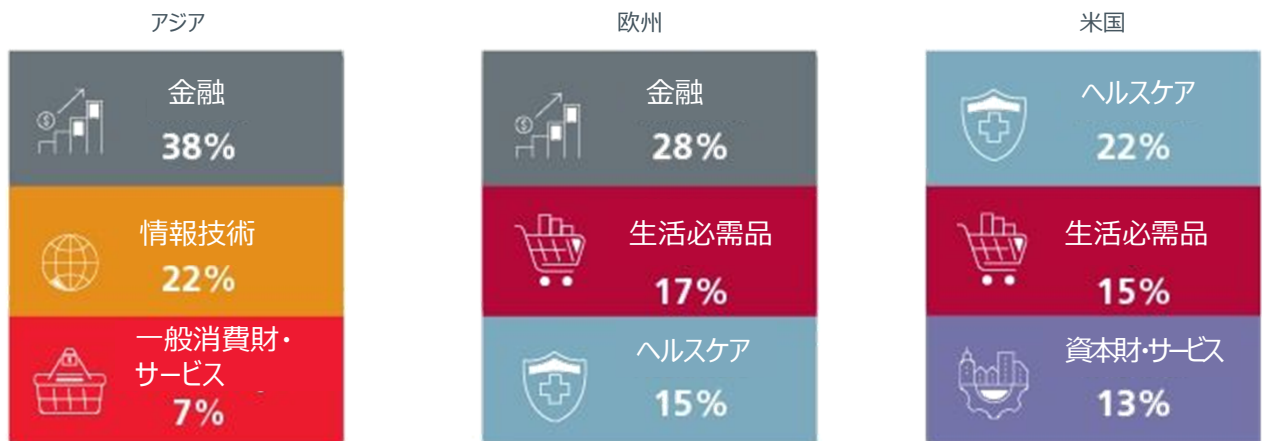
アジアのインカム特性

アジアの高配当株式を特徴づけている要素のひとつに、テクノロジーセクターの比率が高い点が挙げられます。米国や欧州では、生活必需品やヘルスケアセクターが高配当指数の主要構成となっていますが、アジアではテクノロジーが重要な構成要素となっており（図表4）、配当と成長の両面を享受することが可能であると考えられます。

また、アジアの高配当株式は、グローバルおよびアジアの債券市場や、米国・欧州の高配当株式との相関が比較的低く、ポートフォリオ全体の分散効果を高める可能性があると言えます（次頁、図表5）。

アジアでは、国やセクターごとに配当性向や利回りが大きく異なっており、豊富な投資機会が存在する一方で、下方リスクも内包されていると言えます。そのため、アクティブ運用による深い企業分析が重要になると考えられます。

図表4：高配当利回り指数の主要セクター構成

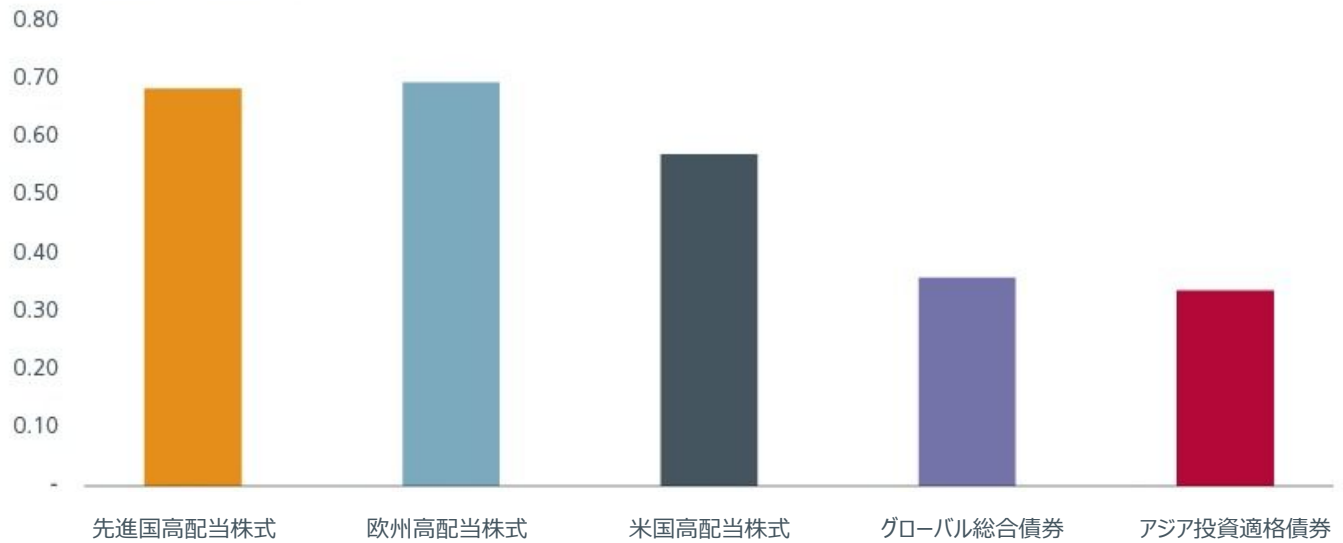


出所：MSCI（2025年12月）のデータに基づき、イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。
 アジア：MSCI アジア・パシフィック高配当利回り指数、米国：MSCI USA高配当利回り指数、欧州：MSCI Europe高配当利回り指数、先進国：MSCI World高配当利回り指数。なお、過去の実績は将来の結果を示唆するものではありません。

invested in insights.

図表5：アジア高配当株式と他のインカム資産との相関

アジア高配当株式との相関係数



出所：Bloomberg（2026年2月2日時点）のデータに基づき、イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。10年相関係数を使用。アジア：MSCI アジア・パシフィック高配当利回り指数、米国：MSCI USA 高配当利回り指数、欧州：MSCI Europe高配当利回り指数、先進国：MSCI World高配当利回り指数、グローバル総合債券：ブルームバーグ・グローバル総合トータル・リターン指数、アジア投資適格債券：JPモルガン JACI 投資適格債 トータル・リターン。なお、過去の実績は将来の結果を示唆するものではありません。

構造的なテーマや景気循環の変化を捉え、新たなインカム源を見出すことができる点はアクティブ運用の大きな利点であると言えます。特に、現在は配当を支払っていないものの、キャッシュフロー改善により配当再開が見込まれる企業や、特別配当が期待される企業など、従来の配当スクリーニングでは見落とされがちな機会を捉えることができる可能性があります。

また、ファンダメンタルズの悪化や業界構造の変化、規制動向などによる配当持続性のリスクを早期に察知し、リスクの高まる銘柄から質の高い企業へ資本を再配分することも重要と考えられます。さらに、カバードコール戦略などを活用することで、追加インカムを創出する余地もあると言えます。（詳しくは2026年2月発行のレポート『アジア市場で磨くインカム戦略 持続可能な収益源を見極める視点』をご参照下さい。）

アジア高配当株式への投資意義

インカム重視のポートフォリオにおいて、アジア株式の組み入れ比率を低位に配分したままでは、魅力的な配当機会を取り逃す可能性があると言えます。アジアでは、幅広い国・セクターが多様な収益源を提供しており、地政学リスクや関税政策、中央銀行のスタンスなど、市場を動かさうる要因が多い環境下において、配当がトータルリターンを支える重要な役割を果たす場面が増えていると考えられます。

また、アジアの株式市場は依然として割安感が残っているとみられ、こうした環境においては配当利回りが下支えとなる可能性があります。2026年の市場環境を踏まえると、アジアの高配当株式は分散とリターンの両面で重要性を増していると言えます。

- ※ MSCI 指数はMSCI Inc. が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ※ JPモルガンの各指数はJ.P. Morgan Securities LLCが算出、公表しているインデックスであり、著作権、知的財産権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

<当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）が作成した資料をもとに、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業や業種・テーマに言及することがありますが、当該企業の株式／債券や業種・テーマについて組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。○抄訳には正確性を期していますが、必ずしもその完全性を担保するものではありません。また、必ずしも原資料の趣旨をすべて反映した内容になっていない場合があります。